

学習内容報告書 フォーマット

学校名	横浜市立みなとみらい本町小学校
授業者	高原洋介

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

横浜の海の豊かな生態系を広く伝えたい！ ～高島水際線公園の環境を再現！ 海水槽づくり～

1-2. 学年

6年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間 道徳 国語 社会 理科 特別活動

1-4. 単元の概要

該当学年は、4年生の時から3年間継続して、海洋保全教育に取り組んできた。当初、まちには自然が少ないと考えていた子どもたちは、高島水際線公園の人工干潟での生き物観察を通して、目の前に広がる海には豊かな生態系が存在することに気付いていった。そして、保護者・地域住民を対象にアンケート調査をしていると、子どもたちと同じように多くの人が海の豊かさを知らない事実に出合った。そこで、公園で観察できる生き物を紹介するリーフレットや公園の入口の壁に生き物を紹介する壁画を制作してきた。

6年生では2年間の経験をもとに、「もっと海の生き物のことを知って、守ってほしい」との課題を設定した。より多くの人に知ってもらうためには、リアルな生き物を展示できる水槽を校内に設置することとし、人工干潟での生き物観察ならびに水質調査などを行ったうえで、水槽デザインを考えることとした。水槽を通して、保護者・地域住民ならびに下級生に、海の豊かさとともに海が抱える課題についても関心を広げてほしいと考え、活動を進めた。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本校児童は、みなとみらい地区の高層マンション在住の児童であり、目の前には横浜港が広がっているが、関心は高くない。また、まちに自然が少ないことが課題と感じている。


そこで、横浜の海の生き物たちを紹介する水槽を校内に設置することを通して、多くの人に豊かな生態系が存在することを知ってほしいと考えた。そして、海への関心を高めるとともに、公園に漂着するプラスチックごみやヘドロ・水質悪化といった海が抱える課題について関心をもつきっかけとなってほしいと考えた。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

まちの社会課題を把握し、その解決に向けて、繰り返し観察したり調査したりをすることを通して、持続可能なまちについて考えたことを、主体的に活動して社会に参画しようとしたり、自分たちの生活をよりよくするために行動しようとしたりしている。

1-7. 単元の展開 (全 14時間)

時数	学習活動・主な内容	■教師の指導 / ◎主な評価 (外部連携 / 使用教材) 等
昨年度まで	<p>(昨年度までの取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園の生き物を紹介するリーフレットづくり ・公園内人工干潟での水質検査およびヘドロ改善への取組 ・人工干潟や隣接する河川に漂着するごみの種類調査 ・公園に向かうルート上に、公園の生き物の紹介する壁画の描画 	<p>■何度も足を運んだり調査したりする機会を設けて、子どもが公園や地域が抱える課題に気づき、主体的に活動できるように支援する。</p> <p>◎まちの持続可能性に対する自分の考えをもち、行動できているのか</p> <p>(外部連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高島水際線公園愛護会 吉野様 ・海づくり研究会 古川様
1～4	<p>○昨年度と比較しながら、横浜の海の現状を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水質検査をして、水質の比較 ・生き物調査をして、生き物の数・種類の比較 	<p>■昨年度までの経験を生かしつつ、海の現状を見つめ直すことで、今年度の活動の目標をもたせる。</p> <p>◎公園の現状を把握し、これからの活動に生かそうとしているのか</p>
5～6	<p>○より多くの人に、横浜の海の豊かさをどのようにして広めていくのかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットをもっと多く配布する ・公園や近隣の商業施設でイベントを行う ・水槽で生き物を飼って紹介する 	<p>■より多くの人に知ってもらうために、どのようにしたらよいのか、自分の考えをもてるようにする。</p>
7～9	<p>○下級生にも、海の豊かさを伝えていくために、どんな水槽にしていってよいかを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生態系を再現するために、メスコム実験の考えを取り入れた水槽にしたい ・個別の水槽を用意するのではなく、多くの種類の生き物が共存できる水槽にしたい 	<p>■水槽の実現に向けて、既習事項を生かしながら、実現可能性の高い案をまとめられるようにする。</p> <p>(外部連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物コンサルタント 青木様 ・高島水際線公園愛護会 吉野様 ・海づくり研究会 古川様
	<p>水槽の設置工事</p> <p>※子どもが考えた水槽デザイン (一例)</p> 	 

1 0 ~ 1 1	<p>○下級生に水槽をお披露目する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物を教室から移動して水槽に入れよう。 ・生き物を紹介してあげよう ・水槽を見てもらうルールを紹介しよう 	<p>■生き物コンサルタントの青木さんからのアドバイスを参考に、下級生が親しめるような観察の仕方などを考えられるように支援する。</p> <p>◎相手意識をもって活動しているか</p>
1 2 ~ 1 4	<p>○3年生と一緒に公園（人工干潟）へ行って、生き物を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生に、生き物がいる場所や捕まえ方を教えてあげよう。 ・公園で生き物を採集して、水槽に放してあげよう 	
	水槽の維持管理	

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

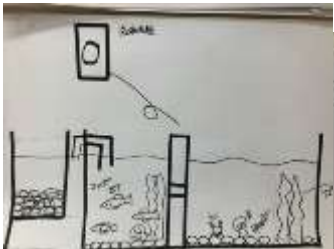
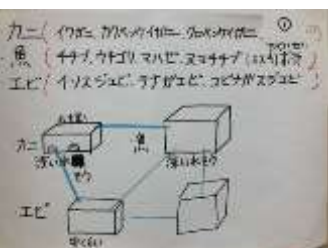
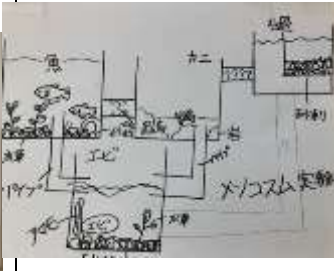

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

水槽に入れられる生き物の種類や生息環境を考えながら、高島水際線公園の人工干潟で観察できる生き物を広く伝えるという目的に向かって、専門家のアドバイスをもらいつつ、自分たちオリジナルの水槽デザインを考えることができる。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	■教師の指導・支援 / ◎評価の視点（方法）
<p>1 どんな水槽にするべきかの考えを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高島水際線公園にいる生き物を入れていく。 ・水槽で飼っても長生きできるものにしたい。 ・生態系を再現したいので、できるだけ同じ水槽にたくさんの生き物を入れたい。 ・同じ水槽にたくさんの生き物を入れると食物連鎖が起きて、生き物が減ってしまう。 <p>2 学習のめあての確認をする。</p>	<p>■何のための水槽なのかという目的を明確にすることで、実現可能性の高いデザインを考えられるようにする。</p>
<p>3 グループに分かれて、原案を考える。</p>	<p>■多くの考えを取り入れていけるように支援する。 ◎水槽設置の目的に沿って考えをもち、条件を整理しながら水槽のデザインを考えようとしている。</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div> <p>4 原案を発表する。</p> <p>5 専門家からアドバイスをもらう。</p> <p>6 学習の振り返りと次回の活動内容の確認をする。</p>	<p>(外部連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物コンサルタント 青木様

3. 今回の活動の自己評価

タワーマンションから当たり前に目にしている横浜の海。そこには、豊かな生態系があることに、子どもたちだけでなく、保護者・地域住民も知らなかった。3年間に渡る活動を通して、下級生や保護者・地域住民にも海の豊かな生態系を伝え、広められたことは大きな成果であった。特に、今年度に校内に設置できた水槽によって、リアルな生き物の姿を目にすることができたことは、とても大きいことであった。休み時間になると、水槽の前には下級生が集まり、ボラやチチブ、スジエビやテナガエビ、カニなどを観察する姿が見られた。来校した保護者・地域の方も水槽の前で足を止め、これらの生き物が公園で採集した生き物であることに驚いた様子を見せていた。

また、途中から3年生と一緒に活動ができたことで、活動の中心となった6年生から公園や人工干潟のことについて引き継いでいくこともできた。今年はコロナ禍ということで、イベントを実施することは叶わなかったが、水槽を通して6年生の子どもたちの思いは広まっていったと思われる。

4. 今後の課題

3年間に渡って、海洋保全活動に取り組んできた6年生が卒業を迎える。成果の一つとして、海の豊かさを伝える水槽を校内に設置できたが、下級生たちがしっかりと引き継いで行かなければならない。引き継ぐ先として様々な案があがっているが、学級・学年に引き継いでいけるようにしていきたい。それは、興味のある一部の子が管理していくのではなく、学級・学年で活動を進め、できるだけ多くの子どもたちが横浜の海に実際に出かけ、生き物に触れることが、海洋保全に関わる裾野を広げていくことにつながると考えるからである。

水槽の維持管理を通して、生き物が住む海についての関心を広げ、海の抱える課題の解決に向けて行動できる子を育てていきたい。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

特にありません。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。